



中津市鷹匠町の和傘工房「朱夏」で8日、和傘の天日干しがありました。

和傘の花が〇〇〇〇

梅雨入り前に和傘を天日干しする今吉次郎代表
中津市鷹匠町の和傘工房「朱夏」、撮影・江藤成吾



中津市の工房「朱夏」

【中津】中津市鷹匠町の和傘工房「朱夏」で8日、和傘の天日干しがあった。梅雨入り前の貴重な陽光を浴び、青空の下に色とりどりの傘の花が開いた。製作は4人の職人が全て手作業で進め、完成まで1本に2カ月を要する。天日干しは、およそ60ある工程の終盤。竹の骨組みに張った和紙の表面にエゴマ油を塗り、10日～2週間干す。雨が続くと作業が滞るため、梅雨入り前にまとめて干すことが多いという。この

日は伝統的な色柄やモダンなデザインの傘など11本を並べた。今吉次郎代表(67)によると、県内唯一の和傘工房。祭事用から晴雨兼用の普段使いまで全国から注文が舞い込むという。「雨粒の当たる独特の音や細かい竹の骨組みなど、日本の文化を感じる生活の道具として使ってほしい」と話している。問い合わせは同工房(☎0979・23・1820)。(吉田美佳)

2020年6月10日付
大分合同新聞13面

① この工房では何人の職人が和傘作りに携わっていますか？1本作るのにどれくらいの期間がかかりますか？

.....

.....

② 天日干し作業はどのように進められますか？梅雨入り前にまとめて干すことが多いのはなぜでしょう。

.....

.....

.....

③ 見出しの〇〇〇〇には「天日干し」を言い換えた言葉が入ります。それは何でしょう？

和傘の花が「〇〇〇〇」 →